

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A中学校)

- ウェルビーイングのために「ストレスやその対処法について考えてみよう」
 - ・ストレスの原因に関する25の質問に対して、「気にならない=1」から「ストレス！=10」までの10段階で自己評価し、ストレスを感じるのは、自分自身・環境・人間関係・体・心等のどの事項と関連が多いかを分析できるようにしている。
 - ・コーピングリスト（ストレスを感じた時に活用できる対処法）を各自で作るとともに、参考になった友達のコーピングリストも共有している。
- アンケート結果を基に、ストレスへの向き合い方について養護教諭が生徒に講話を行い、心の幸せを実現するためには、ストレスと上手に付き合っていくスキルが大切であるという気付きを促した。

【取組2】(B中学校)

- 「トークフォークダンス」
 - ・「大人との交流を通してコミュニケーション能力を育てること」、「様々な方の価値観を知り、進路に向けての動機付けにつなげること」を目的に、大人と生徒がフォークダンスのような2重の輪の隊形に並び、1分ごとに移動しながら司会のテーマに沿って対話をした。
- 生徒も大人も、とても楽しかったという意見が多かった。
- 地域の方にも参加いただき、地域と生徒との距離を縮めることにつながった。



【取組3】(C中学校)

- 社会の気候帯の単元の授業で、先生が「気候帯名」、「気候帯の特徴」、「気候帯の写真」の3種のカードによる「気候帯ゲーム」を用意して行った。
 - ・生徒のレディネスや興味・関心について、普段から授業者が十分に把握し、生徒が授業に集中して取り組めるように準備を工夫した。
- 生徒はゲームを通して興味・関心が高まり、楽しく学習に取り組むことができた。

【取組4】(B中学校)

- 不登校に向き合う基本姿勢について、SCが講師となり教員に解説した。
 - ・本校の校内別室は、「登校できない生徒」と「教室に入れない生徒」の2つに分けて対応することを確認した。
- 不登校の段階である「混乱期」、「低迷期」、「回復期」を見極め、大人が共通理解と共同歩調で生徒を支援することや、支援員、学級担任、家庭が連携し、組織的な支援を行うことが大事だという認識を共有した。

多様な学びの場を確保する取組

〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

支援会議（D中学校）

- 校内別室を運用していく中で、新たに発生した課題への対応を考える。
- ・校内別室の利用生徒の増加に対応するため、使用教室の分割や校内別室での新たなルール作りについて検討した。
- 他の巡回校の校内別室運用についての情報を共有し、自校の課題解決に生かすべく支援会議での検討を継続した。

アウトリーチによる支援（C中学校）

- 受験時の重要書類の受け渡しに向けた巡回教員との関係作りを行った。
- ・受験期には学級担任が多忙になることを考慮し、重要な受験関係書類を確実に受け渡しできるように、巡回教員が家庭訪問に同行し、関係を構築した。
- 登校支援ではないが、生徒の進路実現のために家庭と学校をつないだ。

校内別室における支援（E中学校）

- リラックスできるテント作り
- ・校内別室の生徒から「室内にテントを作りたい」との申し出があり、設計から作成までを支援員が協力して行った。
- ・どのような形のテントを作りたいか、校内別室利用の生徒たちにアンケートを取りながら進めた。
- 作成後は、テントをカームダウンの居場所として利用している。



デジタル機器を活用した支援（E中学校）

- バーチャル・ラーニング・プラットフォーム（VLP）を活用した。
- ・かんぢく緘黙の生徒に対し、タイピングを通してコミュニケーションを行った。
- VLPの投稿機能で自分のお気に入りの写真を仮想空間内に掲示してもらうなど、自ら発信する機会が得られた。

関係機関との連携（E中学校）

- 地区の学校支援チームと連携して対応した。
- ・心理士を含む支援チームが家庭と連絡を取り学校での生徒面談を実施した。
- かんぢく緘黙の生徒との面談を依頼し、心配や悩み事について聞き取った内容を共有し、校内別室でのサポートに生かしている。

成 果

- 各校の【校内別室の様子や課題】と【「生徒の安心・生徒の絆づくり」につながる授業の工夫や学校の取組】を紹介し共有することで、不登校対応への理解を広めることができた。

課 題

- 多様な事情を抱える不登校生徒に支援員だけでの対応は難しく、教員の不登校対応への更なる理解と協力が不可欠である。